

すずらん通信

Vol.21
平成30年
3月25日
発行

卒園遠足

2月22日お楽しみ会（卒園遠足）で、よみうりランドへ行きました。この日は、あいにくのみぞれ混じりの雨で、かなりの寒さでした。

生徒9名とスタッフ・ボランティア3名で、町田駅と橋本駅と2カ所の集合場所から、いざ、よみうりランドへ……。

着くなり、かなりの人混みで、子どもたちは、寒さもあってか気落ちしていました。でも、来たからには遊ばなければと各々自分の乗りたい乗り物へと動き始めました。中には、寒さに負けて室内の暖かい所で暖を取っている子もいました。

私は、小腹が空いたので屋外にあるフードコートで、変わったフライドポテトをストーブのそばで食べていました。とても美味しかったです。と、そこに何名かの子どもたちが、私の食べている姿を発見して近づいて来ました。でも、その時にはもう、フライドポテトはありませんでした。（ホッ……）

それから、昼食となり皆で屋内のレストランで食べましたが、やはりそこは観光地、ちょっと値段が気になりました。

午後からは、中学生と小学生に分かれて、探索が始まりました。私は、小学生チームに入り、自動車や文房具が出るまでの工程をなぞったゲームをするブースへと行きました。でも、ほとんど出来ませんでした。私の運動神経に疑いの眼差しが。（悲しい……）

途中から中学生と合流しました。私は絶叫マシンが苦手なのですが、「先生、この乗り物は大丈夫だから」と言って連れて行かれた乗り物が、なんと遠心力の凄い乗り物で、終わったあと、気分が悪くなってしまいました。というより、立ち上がれず係りの人に助けられて乗り物から出ました。もう二度と騙されまいと思いつつながら。

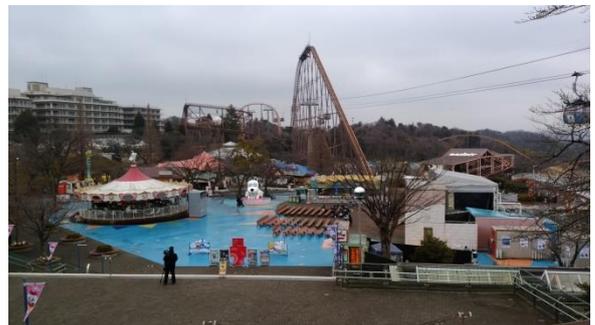
観覧車を続けて3回も乗る子もいれば、かなりハードな乗り物を試す子もいたり、メリーゴーランドを無邪気に楽しむ子もいました。皆、自分なりに楽しんでいて、見ている私たちは幸せを感じさせてもらいました。

帰る前に恒例のお買い物をして、集合写真を撮りました。皆、とてもいい顔で撮れていましたよ。

あっという間の卒園遠足でしたが、朝の寒さが嘘のように、心軽やかな帰り道でした。

お疲れ様でした。風邪ひかないようにね。

（中村 鳴美）



卒園パーティー

この日は、曇り気味ではありましたが、暖かな春の陽気でもありました。桜の花もちらほらと咲き始め、鈴蘭学園では、3名の子どもが卒園することとなりました。1名は中学校進学、2名は高校進学です。

当日は、10名の子どもと、スタッフ・ボランティア3名の参加となりました。

お昼は、皆でガイワイヤワヤと楽しく食べました。午後からは、外遊びに行きたい子と園で遊びたい子と分かれ、私は園に残っていました。外遊びから子どもたちが帰ってきた後、卒園生にはよみうりランドの集合写真を貼った寄せ書きを渡しました。

一人ずつ呼んで渡しましたが、毎年のごとで、私は涙をこらえることができませんでした。桜の咲く頃は、悲しくもあり嬉しくもあり、本当に複雑な気持ちになります。

卒園していく子どもたちに、暖かなエールを贈りたいと思います。頑張れ～！ (中村 鳴美)



今年度を振り返って

まるで、年度初めからひと月程度しか経っていないような感覚で今を迎えています。それだけ密度の高い1年だった、ということなのでしょう。今年度は、4月から激動と呼ぶにふさわしい年でした。新しい事業を始めるにあたり様々な勉強と準備を重ねてまいりましたが、何かを一つ前へ進めると、必ず何かにつまづくとといったような困難の連続で、スムーズに進んだことを思い起こすのが難しいくらいです。しかしながら、どれだけ困難を伴ったとしても、私たちの支援を待っている児童がいる事実是不変わります。私たちは、至らない点があることを認めつつ、前に進まなくてはなりません。

今年度は、少しずつ鈴蘭学園の活動が周囲に知れ渡る年となりました。そのたびに、新たに出会う人たちから温かい言葉とご協力を頂き、ここまで来ることができました。鈴蘭学園は、もはや私たちの活動のみによって成り立っている組織ではなくなりつつあります。当初は創立者の熱い思いによって活動を始めた鈴蘭学園ですが、今や社会の要請に応えていかなければならない段階に入りました。新年度に新事業を始めるにあたり、鈴蘭学園にあらゆる形でかかわる皆さま方のご期待に応え、その重責を果たすために、一意専心して参る覚悟です。

次年度も皆さま方のご指導、ご声援の程よろしくお願いいたします。 (菅原 雅史)

活動の概要について

この場を借りて、平成29年度の活動について概要をご報告したいと思います。

今年度の大きな特徴として、相談に訪れる方の傾向が前年度までとは変わってきたことが挙げられます。これまでは、相談者、入会者のほとんどが中学生でしたが、今年度は小学生が大幅に増加しました。3月23日(本年度最後の開園日)の時点で、在籍者の約半数が小学生となっています。

また、前年度より施行された「教育機会確保法」の影響からか、学校の先生をはじめ、不登校支援に協力的な方々と連絡を取る機会が増えたことも変化の一つです。中には校長先生が活動の様子を見学しに来てくださった学校もあります。相模原市議の方も視察に来てくださいました。

入会者の入れ替わりについて見ると、今年度は入会者が5人、卒園者が3人となりました。卒園者は全員が進学を理由としています。新規入会者は5人全員が小学生でした。しかし、学校在籍者数に対する不登校児の割合は、依然として中学校の方が高いままです。ここまで一気に小学生が増えた理由は、まだはっきりしませんが、もしかしたらこれまで支援を受けずにいた小学生が顕在化してきたのかもしれない。

日々の活動に目を向けると、今年度は学習に取り組み始める児童が多くなりました。鈴蘭学園では昼間と夜間の2種類の学習支援を用意していますが、そのどちらでも利用者の数が増えました。また、近場の公園に出かけて運動するようにもなりました。普段はパソコンやゲームに熱中している児童でも、外では全力で走り回ります。本当はすごいエネルギーを抱えているのですね。

その他、詳細は後日作成する活動報告書にてご報告いたします。 (菅原 雅史)

年度末を迎えて

この1年間、皆様には多大なるご協力のもと、ご支援を頂き、誠にありがとうございました。来年度もスタッフ一同力を合わせてやって行きたいと思っておりますので、どうか、今後ともよろしく願いいたします。 (中村 鳴美)

中村のちょっと成長した話

卒園パーティーの日の出来事でした。卒園する子に色紙を渡した時、その中で私が書いた「ありのままの自分で真っ直ぐに進んでいって下さいね」という言葉を読んだその生徒が、「先生、ありのままじゃ～ダメなんだ」と、今の自分をもっと変えていかなくてはいけないんだと。う～ん、すっごく成長したなって思いました。これからも、自分探しを沢山していって下さいね。

涙、涙でした。



中村の家のベランダで咲いた鈴蘭です。

4月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 開園日	4 開園日	5 開園日	6 開園日	7 面談受付
8	9	10 開園日	11 開園日	12 開園日	13 開園日	14 電話相談
15	16	17 開園日	18 開園日	19 開園日 鈴蘭学園11周年	20 開園日	21 面談受付
22	23	24 開園日	25 開園日	26 開園日	27 開園日	28 電話相談
29 鈴蘭説明会 電話相談	30	1	2	3	4	5

お悩みの方、ご相談ください。

自信・活力・自分らしさを取り戻すため、あなたと共に問題に向き合います。
まずは、ご相談ください。

相談専用ダイヤル TEL : 042-733-0015

電話相談事業は、神奈川県フリースペース等補助金により運営しています。